

施策名：豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造

事業名	担当課・室名	ページ
生物多様性保全推進事業	自然保護推進室	1 / 7
おおいたジオパーク推進事業	自然保護推進室	2 / 7
祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進事業	自然保護推進室	3 / 7
(公) 海岸保全事業 (河川)	河川課	4 / 7
(公) 港湾環境整備事業	港湾課	5 / 7
県営都市公園施設整備事業	公園・生活排水課	6 / 7
県営都市公園里山利活用推進事業	公園・生活排水課	7 / 7

事務事業評価調査

(事業実施年度：平成30年度)

別紙2-4

(評価実施年度：令和元年度)

事業名	生物多様性保全推進事業		事業期間	平成29年度～令和 年度		政策区分	恵まれた環境の未来への継承～おおいたうつくし作戦の推進～	
				施策区分	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造			
総合評価	A	継続・見直し	事業実施課(室)名	自然保護推進室		評価者	自然保護推進室長 橋本 昌樹	

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	豊かな自然に恵まれた本県でも、開発等による土地利用の変化や外来種による生態系への被害など、生物多様性の危機は進行している。また、生物多様性の保全の必要性への県民理解は不十分である。 本県の豊かな自然を将来につなぐため、平成28年3月、「第2次生物多様性おおいた県戦略(2016-2020)」を策定した。	事業の目的	本県の豊かな自然や生物多様性の恵みを将来にわたり享受していくため、「第2次生物多様性おおいた県戦略(2016-2020)」に基づき保全施策を実施する。
-------	--	-------	---

[2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	番号	主な活動の予算額	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
①特定外来生物の防除対策 アライグマ担当者会議の開催(1回)	①	4,559	総コスト	24,142	27,093	29,304
②積極的な保護施策の推進 おおいたの重要な自然共生地域の公表(23地域) おおいたの重要な自然共生地域検討委員会の開催(2回)	②	3,079	事業費	4,142	7,093	9,304
③持続可能な自然保護の推進 生きものを育む農業を学ぶ研修会の開催(1回：25名) 自然保護団体の研究発表会の共催(1回)	③	1,708	(うち一般財源)	2,492	6,136	7,000
④希少野生動植物の保全対策 希少野生動植物の保全活動を行う団体への支援(3団体)	④	1,660	人件費	20,000	20,000	20,000
	計	11,006	職員数(人)	2.00	2.00	2.00

活動指標	指標名(単位)		達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	指標名(単位)		達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	評価
	アライグマ防除講習会の受講者数(人)		目標値		20	50			41%	おおいた保全地域検討委員会の開催数(回)		目標値	2	2	1		
		実績値		41							実績値	2	2				
		達成率		205.0%							達成率	100.0%	100.0%				
おおいたの重要な自然共生地域の公表数(件)		目標値		20	10			28%	希少野生動植物の保全事業の支援団体数(団体)		目標値	3	3	3		15%	
		実績値		23							実績値	3	3				
		達成率		115.0%							達成率	100.0%	100.0%				

評価割合の合計は、端数処理上100%にならない場合があります。

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)		達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果	
	いきものログ登録件数(件)		目標値		50	50				a
		実績値		58						
		達成率		116.0%						

[4. 今後の課題と方向性等]

今後の課題	今後の方向性	終了	継続・見直し	例外的に継続	廃止
<ul style="list-style-type: none"> ・おおいたの重要な自然共生地域の公表及び保全に向けた県民意識の醸成 ・自然保護活動への県民理解の向上及び活動団体のネットワークづくり ・特定外来生物(アライグマ)の防除対策 ・希少野生動植物データの整理 	今後の事業方針 <ul style="list-style-type: none"> ・おおいたの重要な自然共生地域の公表及び普及啓発 ・自然保護団体の活動状況報告会の開催等による交流の場の提供 ・特定外来生物(アライグマ)の防除体制の整備 ・希少野生動植物データベースの整備 				

事務事業評価調書

(事業実施年度：平成30年度)

別紙2-4

(評価実施年度：令和元年度)

事業名	おおいたジオパーク推進事業		事業期間	平成23年度～令和 年度		政策区分	恵まれた環境の未来への継承～おおいたうつくし作戦の推進～		
						施策区分	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造		
総合評価	A	継続・見直し	事業実施課(室)名	自然保護推進室		評価者	自然保護推進室長 橋本 昌樹		

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	<p>学術研究の充実、ジオガイドの養成やスキルアップ、日本ジオパーク再認定の際に指摘された課題の解決等のため、おおいた姫島ジオパーク及びおおいた豊後大野ジオパークの活動を支援するとともに、両ジオパークとともに第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会開催に向け体制を確立し、準備を本格的に進める。</p>	事業の目的	<p>おおいた姫島ジオパーク及びおおいた豊後大野ジオパークの活動を持続可能な取組とし、地域の活性化を図るため、両ジオパークの活動を支援する。</p>
-------	--	-------	--

[2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	番号	主な活動の予算額	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
①ジオパーク活動の質向上のための支援 県内・県外教育交流事業の実施、ガイドの養成、解説板等の整備、再認定審査対応等への支援	①	8,000	総コスト	39,168	39,409	77,350
②ジオパークの情報発信 ジオシンポジウムの開催(共催)、日本ジオパークネットワーク(JGN)及び他地域ジオパーク事業への参加等、第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会の準備	②	6,000	事業費	19,168	19,409	32,350
③地域資源(動植物、地質鉱物)の調査 県内の貴重な動植物・地質鉱物についての調査実施及び天然記念物としての学術的価値の検討	③	6,000	(うち一般財源)			
	④		人件費	20,000	20,000	45,000
	計	20,000	職員数(人)	2.00	2.00	4.50

活動指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	評価
	ジオガイド養成講座開催(回)	目標値	28	20	20			40%	天然記念物緊急調査指導委員会開催(回)	目標値	2	2	2		
	実績値	31	14					実績値	2	4					
	達成率	110.7%	70.0%					達成率	100.0%	200.0%					
ジオシンポジウム等普及交流の開催(回)	目標値	3	3	3			30%	目標値							
	実績値	2	5					実績値							
	達成率	66.7%	166.7%					達成率							

評価割合の合計は、端数処理上100%にならない場合があります。

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果
ジオガイドの活動回数(回)	目標値	66	90	90			a	<p>様々な情報発信により、姫島、豊後大野両地域のジオパーク活動の認知度が向上したため、来訪者が増加(対前年度383人増)し、ジオツアー等でのジオガイドの活動の機会が増えた。一方、ジオガイドの養成活動が一定レベルに達し、新規養成講座開催回数が減少したため、地域学習会によるスキルアップ活動を強化した。</p>
	実績値	104	128					
	達成率	157.6%	142.2%					

[4. 今後の課題と方向性等]

今後の課題	今後の方向性	終了	継続・見直し	例外的に継続	廃止
<ul style="list-style-type: none"> ・姫島、豊後大野両地域の持続可能なジオパーク活動の充実・強化 ・ジオシンポジウムの内容・あり方等多様な企画の検討・支援 ・ガイドの養成やスキルアップ、ガイド組織等受入体制の整備 ・再認定審査で指摘された事項への対応 ・第10回日本ジオパーク全国大会2019おおいた大会の成功及び大会を契機とした持続可能な両ジオパーク活動の推進 	<p>今後の事業方針</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫島、豊後大野両地域でのジオパーク活動が持続可能なものとなるよう、受入体制整備等の支援 ・学術研究者や地質愛好家等にジオパークの魅力を間断なく情報発信 ・再認定審査で指摘された受入体制整備や調査研究のアウトプット等の改善に向けた支援 				

事務事業評価調書

(事業実施年度：平成30年度)

別紙2-4

(評価実施年度：令和元年度)

事業名	祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進事業		事業期間	平成26年度～令和 年度		政策区分	恵まれた環境の未来への継承～おおいとうつくし作戦の推進～			
						施策区分	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造			
総合評価	A	継続・見直し	事業実施課(室)名	自然保護推進室		評価者	自然保護推進室長 橋本 昌樹			

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	祖母・傾・大崩山系及び周辺地域がユネスコエコパークに登録され、自然環境調査の促進や周知活動を行った。一方で調査研究体制の希薄さ及びユネスコエコパークの認知度の向上、ブランドネームを活用した地域活性の取組等が課題となっている。	事業の目的	祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク登録を契機として祖母・傾地域の豊かな地域資源に改めて目を向けるきっかけをつくり、環境保全に資する研究・活動の推進、自然と共生した地域の振興を図るため、情報発信や地域活性化に向けた取組を進める。
-------	--	-------	--

[2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	番号	主な活動の予算額	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
①祖母・傾・大崩ユネスコエコパーク推進協議会事業 推進協議会関係経費(大分県協議会1回、両県協議会1回、両県学術委員会1回) 広報周知活動経費(シンポジウム等の開催、子ども向けの解説冊子7,000部制作、総合案内地図24,000部制作等)	①	5,096	総コスト	35,070	17,687	33,824
	②	2,600	事業費	25,070	7,687	13,824
②大分県ユネスコエコパークオフィシャルアーティストを活用した情報発信 オリジナルプロモーションビデオによる情報発信(DRUM TAOツアー、夏フェス、HPバナー) 国内外へ向けての周知(ツアーパンフレットへの掲載(日本語版、英語版)) 委託先：(一財)TAO文化振興財団	③		(うち一般財源)			
	④		人件費	10,000	10,000	20,000
	計	7,696	職員数(人)	1.00	1.00	2.00

活動指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	評価
	シンポジウム等普及啓発イベントの開催(回)	目標値		3	2	2			66%	目標値					
実績値			3	3			実績値								
達成率			100.0%	150.0%			達成率								
国内外のイベント等で情報発信(件)	目標値		20	5	5		34%	目標値						a	
	実績値		20	5				実績値							
	達成率		100.0%	100.0%				達成率							

評価割合の合計は、端数処理上100%にならない場合があります。

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果
	シンポジウム参加者数(人)	目標値		250	250	250		
実績値			270	350				
達成率			108.0%	140.0%				

[4. 今後の課題と方向性等]

今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> 貴重な生態系の持続的な保全 自然と共生した持続可能な発展 学術的研究や調査研修への支援 	今後の方向性	終了 継続・見直し 例外的に継続 廃止
		今後の事業方針	<ul style="list-style-type: none"> ユネスコエコパークエリア内の研究調査体制の充実、調査研究データの蓄積 ユネスコエコパークの認知度向上、地域資源等の情報発信の強化

事務事業評価調書

(事業実施年度：平成30年度)

(評価実施年度：令和元年度)

繰越がある場合用 別紙2-9

事業名	(公) 海岸保全事業 (河川)	事業期間	昭和 31 年度～令和 2 年度		政策区分	恵まれた環境の未来への継承～おおいとうつくし作戦の推進～
			施策区分	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造		
総合評価		事業実施課 (室) 名	河川課		評価者	河川課長 古庄 和紀

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	近年、強烈な台風による越波や飛沫が発生し、海岸保全施設の被害及び海岸に隣接した重要幹線道路の通行止め等が発生している。また、台風や集中豪雨により発生したごみや流木が漂着し、安全で快適な海岸利用の支障となっている。	事業の目的	海岸及び海岸に隣接した重要幹線道路の高潮やうねりからの防護及び海岸利用者に安全で快適な海岸利用環境を提供するため、海岸保全施設の整備を行う。
-------	--	-------	--

[2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	コスト	29年度 (決算)	30年度 (決算)	元年度 (予算)
① (公) 海岸環境整備事業 安岐海岸：浜アクセス箇所にて緩傾斜護岸工実施 (1基)、国道213号沿いに飛砂対策工実施 (L=820m)	総コスト	19,415	106,209	67,647
	事業費	19,415	106,209	67,647
	(うち一般財源)	878	6,556	4,237
	(うち繰越額)		64,274	
	人件費			
	職員数 (人)			

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名 (単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成 (2年度)	評価	事業の成果
		目標値	13,736	13,866	14,129	14,233		
		実績値	13,286	13,880				
		達成率	96.7%	100.1%				

a
台風・高潮・波浪による被害を防ぐための海岸保全施設の整備を進めることにより、地域住民の生命・財産の保全と、海岸に隣接した重要幹線道路の通行の確保が図られた。
また、海岸保全施設の整備により、防護・環境・利用面で調和のとれた海岸となり、海岸の観光資源としての機能も増進された。

事務事業評価調査

(事業実施年度：平成30年度)

(評価実施年度：令和元年度)

繰越がある場合用

別紙2-9

事業名	(公) 港湾環境整備事業	事業期間	平成 21 年度～令和 2 年度		政策区分	恵まれた環境の未来への継承～おおいとうつくし作戦の推進～
			施策区分	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造		
総合評価		事業実施課(室)名	港湾課		評価者	港湾課長 外池 正博

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	地域住民等が港湾や水に親しむことができる緑地等施設の整備率は依然として低い。また、近年は地域住民の環境保全に対する意識が高まっており、環境に配慮した緑地等施設の整備を着実に進めることが課題である。	事業の目的	地域住民等が港湾や水辺空間に親しみ、港湾の賑わい空間の創出を図るため、港湾区域内の環境を改善し、地域住民等の憩いの場としての緑地等施設の整備を行う。
-------	--	-------	--

[2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
	①(公) 港湾環境整備事業 別府港：緑地等施設整備予定箇所の植栽工事及び照明設備工事等を実施	総コスト	49,093	78,672
事業費		49,093	78,672	172,647
(うち一般財源)		1,941	2,847	7,374
(うち繰越額)			9,558	45,238
人件費				
	職員数(人)			

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成 (2年度)	評価	事業の成果
	実績値	25.1	25.1					
	達成率	100.0%	100.0%					

事務事業評価調書

(事業実施年度：平成30年度)

(評価実施年度：令和元年度)

繰越がある場合用 別紙2-9

事業名	県営都市公園施設整備事業 (県営都市公園長寿命化対策事業) (県営都市公園施設整備事業)	事業期間	昭和 63 年度～令和 年度		政策区分	恵まれた環境の未来への継承～おおいとうつくし作戦の推進～
			施策区分	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造		
総合評価		事業実施課(室)名	公園・生活排水課		評価者	公園・生活排水課長 三村 一

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	県営都市公園は建設から相当の期間が経過し、施設の老朽化が進んでいる。一方、利用者の公園に対するニーズは多様化しており、快適で安全安心に利用できる公園の整備が課題である。	事業の目的	県営都市公園利用者の安全性、快適性の向上を図るため、施設整備を実施する。公園施設の安全性確保や施設の延命化、ライフサイクルコスト削減を目的に策定した『公園施設長寿命化計画』に基づき、更新時期を迎えた公園施設の計画的な更新を実施する。
-------	--	-------	--

[2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
①(公) 県営都市公園長寿命化対策事業 ハーモニーパーク 長寿命化計画策定調査(2巡回調査) ②県営都市公園施設整備事業 RWC2019に向けた総合競技場の整備【照明改修、ドーピング検査室改修、陸上記者席改修 等】 県営4都市公園施設補修等【軟式野球場BSO改修、硬式野球場グラウンド打ちおこし、軟式野球場照明制御装置改修 等】	総コスト	470,527	733,070	882,754
	事業費	470,527	733,070	882,754
	(うち一般財源)	187,969	38,367	22,655
	(うち繰越額)	9,173	26,000	140,301
	人件費			
職員数(人)				

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果
	施設利用者数(千人)	目標値		2,035	2,035	2,035		
	実績値		1,650	1,796				
	達成率		81.1%	88.3%				

事務事業評価調査

(事業実施年度：平成30年度)

(評価実施年度：令和元年度)

事業名	県営都市公園里山利活用推進事業		事業期間	平成26年度～令和 年度		政策区分	恵まれた環境の未来への継承～おおいたうつくし作戦の推進～			
	A			事業実施課(室)名	公園・生活排水課		施策区分	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造		
総合評価	継続・見直し				評価者	公園・生活排水課長 三村 一				

[1. 現状・課題、目的]

現状・課題	大分県環境基本条例に基づき、県民の自然環境保全への意識の醸成を図るため、県営都市公園の利活用を推進しているが、県営都市公園である大分スポーツ公園には豊かな里山が残されているにもかかわらず、県民に利活用されていない。	事業の目的	大分スポーツ公園の里山で県民の自然体験や環境学習等の機会を設けることにより、その利活用を図るとともに、県民参加による里山再生の推進と自然環境保全への意識の醸成を図る。
-------	---	-------	---

[2. 事業内容]

(単位：千円)

活動名及び活動内容	番号	主な活動の予算額	コスト	29年度(決算)	30年度(決算)	元年度(予算)
①自然体験活動、里山保全活動 委託団体を県が公募(関係団体に郵送、県HP等に掲載) 自然体験や環境学習等の企画・運営を受託団体が実施 (年4回以上開催、計300人以上の参加者募集) (27年度まではハーモニーパークにおいても実施 28年度からは大分スポーツ公園のみで実施 ※28年度からはハーモニーパークでは指定管理者が本事業を引き継ぎ実施) 委託先：造園修景・環境カウンセラー協会大分共同体 (一財)日本造園修景協会大分県支部+NPO法人大分環境カウンセラー協会)	①	1,917	総コスト	3,867	3,809	1,943
	②		事業費	1,867	1,809	1,943
	③		(うち一般財源)			
	④		人件費	2,000	2,000	2,000
	計		1,917	職員数(人)	0.20	0.20

活動指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価割合	評価
	体験活動実施回数(回)	目標値	4	4	4			100%	目標値						
	実績値	7	5					実績値							
	達成率	175.0%	125.0%					達成率							
								目標値							

評価割合の合計は、端数処理上100%にならない場合があります。

[3. 事業の成果]

成果指標	指標名(単位)	達成度	29年度	30年度	元年度	最終達成(年度)	評価	事業の成果
	体験活動参加者数(人)	目標値	400	300	300			
	実績値	405	371					
	達成率	101.3%	123.7%					

[4. 今後の課題と方向性等]

今後の課題	今後の方向性	終了	継続・見直し	例外的に継続	廃止
・提案競技に参加するNPO法人等団体を増やす取組	今後の事業方針 ・「里山保全活動」の内容が充実するよう、提案競技に参加する団体への事前説明で呼びかけ ・多くの団体が提案競技に参加するよう、PR等を工夫				